

OPINION

中部経済新聞

1939年から在パリのメキシコ総領事を務めたボスケスは、以下のように続けます。戦時下、食料供給者と連絡を取り、各材料、油、小麦粉、必要な配給券を得る手配をするのは非常に困難でした。避難所ではパンを作り、食事を

ナヒゲーター

供給したりしましたが、最大の問題は、食事のための原材料の確保でした。畑を耕し、食料の自給自足をほかり、看護や芸術用の作業場も設立しました。造形、鍛造、鍛冶用の工房もだが、それらは、ヴィシー

日本への期待 世界各地から

其 46

ヒルベルト・ボスケスの活躍 食料の自給自足、学校も設立

の若者たちが破壊した城を再建するために必要でした。城は、広大な土地を持つていたが、ほとんどが破壊され、住めるようにするには一から始める必要がありました。大工や石工の資材、工房で使用される道具を使い、大きな倉庫を修復し劇場に変え、廃墟と化した家屋を修復しました。妻も別の城で同様なことをし、子どもたちのために「メキシコの学校」を組織しました。栄養面に気を配り、優秀な小児科医が子供たちの健康

メキシコ、亡命の地

状態を管理しました。牛乳が飲めるよう、苦勞してスイスの乳牛を購入し、有能なスペインの獣医師に飼育させました。医師や看護師が常駐する診療所では、有志の支援もあり、城外も含め人々の世話や治療をし、薬を支給しました。子どもはパーティーが開かれ、私の娘たちや妻も参加しました。私たちは常に他の人の世話をしましたが、スペイン人自身の関心と努力で、満足した意識や意志によって、満足のいく形で展開されました。

ちは出港前の少なくとも3、4日は眠れませんでした。船は入念に、隅々まで調査されました。カサブランカで乗船する人は、まず船でオランダに、それから鉄道でカサランカに送らなければならなかった。加えて、アフリカの収容所にも難民がいたのです。ポランドやチェコの難民は、戦争関連産業のための幹部、つまり技術者を養成することで助けられました。私たちは、彼らの何人かを地中海に向かうボートに乗せて、目的地へ海から連れ出しました。危険の少ない道を利用する必要があります。スイスや地中海の浜辺に通じる道

【フリーマンワルフ(UNA Mビジネススクール教授、リム中産連) (月曜日に掲載)